



ME-BYO サミット神奈川 2022 大会メッセージ

神奈川から世界へ 地域とともに実現する Vibrant INOCHI
～ME-BYO がつなく未来の自分～

我が国の高齢化率は世界で最も高い水準にある。神奈川はこれを乗り越えるため、これまで、未病コンセプトの発信や未病指標の構築など、自分ごと化や行動変容につながる新たな領域に果敢にチャレンジしてきた。

こうした姿勢をコロナ禍でも引き継ぎ、新たなテクノロジーもいち早く取り入れ、関係機関とともに実践する先進的な「神奈川モデル」の実現につながった。

2020年には世界保健機関が「健康な高齢化の10年（2021～2030年）」を提唱するなど、国際社会で高齢化が本格的に課題と認識される中で、神奈川が取り組むべきは、未病改善に関する実践的な取組のロールモデルを確立し、発信しつづけることである。

今回の議論では、地域の健康課題を再確認するとともに、女性や働く世代及び高齢者などの多様な主体に着目し、データやテクノロジーを活用した、未病改善の方策について様々な示唆が得られた。さらに、ウェルビーイングなどの未来社会に向けた価値の共創についても議論を行った。

また、コロナ禍においては多くの方が自分の健康に気を配るようになった。こうした意識の変化は未病改善の行動を日常的に実践する重要な契機となり、市町村とも連携しながら、当事者目線に立った取組を進める必要性も確認された。

圧倒的な勢いで進む超高齢社会においては、病気を治すことに加えて、一人ひとりが自分の未病の状態を自分ごととして捉え、その人にあった未病改善行動を行い、個人のウェルビーイングを通じて、持続可能な社会の実現を目指す必要がある。

そのために、未病の見える化をはじめとした、個人を支えるテクノロジーの社会実装や科学的エビデンスの確立、課題解決・未来志向型の人材育成を、産学公民で連携・協働しながら取り組んできた。我々はこれからもこうした取組をより発展させ、分野や主体の枠を越えて一体的に展開していく。

そして、一人ひとりが安心して自分の幸福や生きがい、未来を想い、自分らしく輝ける「Vibrant INOCHI」の実現に向けて、ともに未来社会を創っていく。